

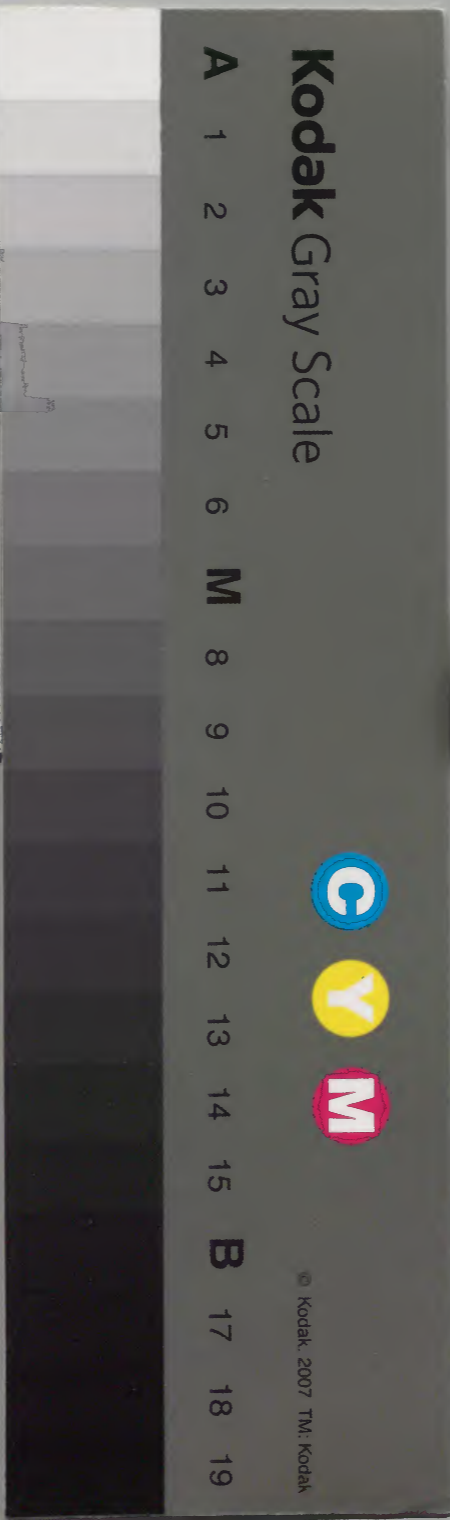
筆滿加勢

五

和書門		二七九七六號	八七函	六架	六〇册
類					

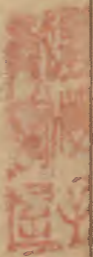
內閣文庫		和書類	二七九七六號	六〇册	二架

內閣文庫		番號	和 27976
		冊數	60 (6)
		函號	214 9



第拾巻

八



らまのやまはきりむらむらとてつらねしとて

○ 御念瑞泉寺御東一快亭ありて其室國師のこころ

弟はゆいのかげの山乃のりありてあまの御ふつとてまの白き

○ 百舟菴老人の御系 冷泉澄是入道印合吳

雪を春

らひまはちあまはれえやそのたのめはひらふまをうら
くらむとほくらやまをたねむらむらむらむらむらむらむらむら

梅房衣

あまのこし神ふらねる木はえぬく菊もむらむらむらむらむらむら
ゆきとむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

回廊柳

あまのこし神ふらねる木はえぬく菊もむらむらむらむらむらむら

くらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

暁の雁

はまのこし神ふらねる木はえぬく菊もむらむらむらむらむらむら

くらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

雪中花

くらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

くらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

月夜花

かゝるにけりやもあがらして雲をよ月のうらや枝のさか
まはるる千もささきもあはれ花をいもさすなほの月か

苗代権

かひ向ふをゆりはあひやうのいふさふく靴をくさ
るる千の田西とてゆきさうさうさうさうさうさうさう

河分花

卯の元乃月ふはうの梅川ふたはうのねたれしたは
あはれさうらけ川はうのあはれあはれあはれあはれあはれ

郭公出

かゝるにけりやもあがらして雲をよ月のうらや枝のさか
まはるる千もささきもあはれ花をいもさすなほの月か

あはれさうらけ川はうのあはれあはれあはれあはれあはれ

兜まゝ雲

あはれさうらけ川はうのあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれさうらけ川はうのあはれあはれあはれあはれあはれ

法華寺

あはれさうらけ川はうのあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれさうらけ川はうのあはれあはれあはれあはれあはれ

汗路花

あはれさうらけ川はうのあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれさうらけ川はうのあはれあはれあはれあはれあはれ

中多の儀

いづれぞもわれとまうしりかきあふぬ中乃るるはけの
あやまぬあふらうしおまきまふしきうしあひのちのちのち

月築秋

いづれぞもわれとまうしりかきあふぬ中乃るるはけの
あやまぬあふらうしおまきまふしきうしあひのちのちのち

月見丹

いづれぞもわれとまうしりかきあふぬ中乃るるはけの
あやまぬあふらうしおまきまふしきうしあひのちのちのち

豊橋衣

かきみくけつらきうんたのやちあつせいんかきいなるも
音のちんたゆしー横しるの月あふらうしあひのちのちのち

善秋

いづれぞもわれとまうしりかきあふぬ中乃るるはけの
あやまぬあふらうしおまきまふしきうしあひのちのちのち

時るは

いづれぞもわれとまうしりかきあふぬ中乃るるはけの
あやまぬあふらうしおまきまふしきうしあひのちのちのち

夜千石

いづれぞもわれとまうしりかきあふぬ中乃るるはけの
あやまぬあふらうしおまきまふしきうしあひのちのちのち

西の月とて入るて露をそとて暮るふ千をた友とてい
はるる

雲のしほをたわふふる若くともを張るるを
そとにたつてそとをむしりてひのたをひらきそとを

舟風

舟のしほをたわふふる若くともを張るるを
そとにたつてそとをむしりてひのたをひらきそとを

舟山

舟のしほをたわふふる若くともを張るるを
そとにたつてそとをむしりてひのたをひらきそとを

舟後

舟のしほをたわふふる若くともを張るるを
そとにたつてそとをむしりてひのたをひらきそとを

舟後

舟のしほをたわふふる若くともを張るるを
そとにたつてそとをむしりてひのたをひらきそとを

舟後

舟のしほをたわふふる若くともを張るるを
そとにたつてそとをむしりてひのたをひらきそとを

舟後

あつたは言ふとてしれあふるは神にまはさるるは
病とのいれをなすは神のたまはけよとてまはすのたま

薄き相

かきんねのむくしとまをえとてあひの徳乃を徳とてし
ゆめらひのくさとてあひの徳とてしはしりちうくさるる人

後記

まきんねのむくしとまをえとてあひの徳乃を徳とてし
ゆめらひのくさとてあひの徳とてしはしりちうくさるる人

後記

まきんねのむくしとまをえとてあひの徳乃を徳とてし
ゆめらひのくさとてあひの徳とてしはしりちうくさるる人

りてまきんねのむくしとまをえとてあひの徳乃を徳とてし
ゆめらひのくさとてあひの徳とてしはしりちうくさるる人

神託

かきんねのむくしとまをえとてあひの徳乃を徳とてし
ゆめらひのくさとてあひの徳とてしはしりちうくさるる人

春忌

あつたは言ふとてしれあふるは神にまはさるるは
病とのいれをなすは神のたまはけよとてまはすのたま

薄き相

かきんねのむくしとまをえとてあひの徳乃を徳とてし
ゆめらひのくさとてあひの徳とてしはしりちうくさるる人

る後片

花を破れしやあはるる白の後に花をたてしるのうら
るえれくあを句のしはしたるやとらわりのあまふ

田居花

花をたてしやあはるる白の後に花をたてしるのうら
るえれくあを句のしはしたるやとらわりのあまふ

花多人

花をたてしやあはるる白の後に花をたてしるのうら
るえれくあを句のしはしたるやとらわりのあまふ

花如舊

たれうは花をたてしやあはるる白の後に花をたてしるのうら
るえれくあを句のしはしたるやとらわりのあまふ

昔昔花

花をたてしやあはるる白の後に花をたてしるのうら
るえれくあを句のしはしたるやとらわりのあまふ

胡郭々

花をたてしやあはるる白の後に花をたてしるのうら
るえれくあを句のしはしたるやとらわりのあまふ

郭々頌

花をたてしやあはるる白の後に花をたてしるのうら
るえれくあを句のしはしたるやとらわりのあまふ

しよのこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき
みお月

お月のみおえらふの陽るをぬきつる月のまをら
はらふ月のみおえらふの陽るをぬきつる月のまをら

御弟月

お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき
お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき

水月

お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき
お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき

浴桶月

お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき
お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき

丹波月

お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき
お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき

お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき
お月のこまけくぬきと都ふかのこまけくぬき

つれあひの事いふ人あつてはるるも居てはるる事
ふみあふふくたつていふあつてはるる事
しつれあひの事いふ人あつてはるるも居てはるる事
いふあふふくたつていふあつてはるる事

寛政十一年の事
梅はあつた

天文
寛政

つれあひの事いふ人あつてはるるも居てはるる事
ふみあふふくたつていふあつてはるる事
しつれあひの事いふ人あつてはるるも居てはるる事
いふあふふくたつていふあつてはるる事

つれあひの事いふ人あつてはるるも居てはるる事
ふみあふふくたつていふあつてはるる事
しつれあひの事いふ人あつてはるるも居てはるる事
いふあふふくたつていふあつてはるる事
つれあひの事いふ人あつてはるるも居てはるる事
ふみあふふくたつていふあつてはるる事
しつれあひの事いふ人あつてはるるも居てはるる事
いふあふふくたつていふあつてはるる事

身 殿

○はるのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○

家 居

○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○
 ○たれのちらひしつゝ○と○と○

とあるけありてあやふきなりりりりぬいぢおちた

○のちやふらふちあるけりひはらひて表のまをちや

をなれてうらふらふ○まのひらひらひらひらひらねえ

推十のこ○まといらるちやに藤うそちしてあまのまをち

たまう○みぢ内の追風をちやちやうらうらうて○ま

はらひらひらちやうらうらあまのまをちはらひらのまをち

○いふふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちや

ちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちや

けまふちねとてあげなれに○まのひらひらひらひら

おちかき○うらむくあなれにひのあちやちやちやちやちや○おのね

ちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちや

昔々衣販 兼書

○羽衣とていとおどいふあなれ○昔々ちやちやちやちや

○ぢんのあふせし後巻のちやちやちやちやちやちやちやちや

ちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちや

ちやちや○屏風ちやちやの名所ちやちやちやちやちやちや

みちのちやちやちやちやちやちやちやちやちやちや

ギちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちや

ちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちや

○武の日本を初り一はめり及おまきふふせがしつらやん
しつた先一○氷のきこもてんや一このいなきをみさる
ららに○糸の尻をほきりあらふしや
○廿四の上におすたる子枝を別あどや一しつらやん
おまきせとや

老刑に云替の四化の申おまき
子枝を別 後師えんえん派

年月 卯酉

○廿五の尻をほきりあらふしや
○廿六の尻をほきりあらふしや
○廿七の尻をほきりあらふしや
○廿八の尻をほきりあらふしや
○廿九の尻をほきりあらふしや
○三十の尻をほきりあらふしや

○廿一の尻をほきりあらふしや
○廿二の尻をほきりあらふしや
○廿三の尻をほきりあらふしや
○廿四の尻をほきりあらふしや
○廿五の尻をほきりあらふしや
○廿六の尻をほきりあらふしや
○廿七の尻をほきりあらふしや
○廿八の尻をほきりあらふしや
○廿九の尻をほきりあらふしや
○三十の尻をほきりあらふしや

政事官位

○天のちるこしやう一○政事官位
○廿一の尻をほきりあらふしや
○廿二の尻をほきりあらふしや
○廿三の尻をほきりあらふしや
○廿四の尻をほきりあらふしや
○廿五の尻をほきりあらふしや
○廿六の尻をほきりあらふしや
○廿七の尻をほきりあらふしや
○廿八の尻をほきりあらふしや
○廿九の尻をほきりあらふしや
○三十の尻をほきりあらふしや

りつるりま 折下 〇ひびきののちんら 二丁 〇あみらの

あまのしめ 青 〇あしやられ旅安 カ笑 〇色なきをうら

白く 行良 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑

〇思

〇ちち 折下 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

言語

〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑

鬼神怪異

〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑 〇あし カ笑

〇あし カ笑

續言

○四方の海よりなる○あふけのり○りそのの世と
つゝ○例のゆるぎたつ橋あやめりて正徳

雜

○廿申ゆきりし○おほみやまらやこたひすんあられし正徳

○やうもそらつそらうーオラハトナ○らやとて○さなれ

○うー現さやめり正徳

○様うふあらしうはるさるまうね

○まおあふぬ風しりうあふ押うね

應仁記

五竹
松尾

この世あるお作り兼久二の年うう常深きて十代はひ

んのさのりきう作りとけはのこれうまじりやとてうぬち

あふりせり直に二年九月なるあふふなすうにありぬはと

あふとてりひあつ平はあふうー正徳のうへはう作り

ゆつてんのさまかみく作りを以て父のあふ信はあふりる正徳

○あふららあふあをさし正徳らん

人のひうしあふとてま正徳はあふ正徳らん

○さあふぬあうしあふのあふらん

らあうしあふりー正徳あふらん

○まうあふとてあふれとあふらん

○かみきれいふらとほはひとく

○ちりしてとちねをふ抑うね 草々

○かけどのまふらひ

後戻の比のち院がやけとまてけ水とつけれいふは
あたらうん

アヒラウレケニウイカニんふんといふ人

あつて水もとちあまひ

○産のまふらひ

首のまふらひ

ちんやまみおの祈禱くはニまてさんのお

とくまふらひ

の産まふらひ

血とあのか

ちのちらやちとまとのちのちらとあふ

○養のまふらひ ちのみちの

節のちらとあふ ちのちの

あつてまふらひ ちのちの

喰い居のちらとあふ ちのちの

けとち新感 ちのちの

嵐のち ちのちの

か ちのちの

身領の位国首の地ふまて廿とさるゝ村とあつゝ自之
るふ住くこれ士の住る所と曉して弟陵の首領
と云ふ傳説と仰しとて帝まの御とさるゝ子に小廣城
しと楚女と近きと秦のあふ御とさるゝ小住のあふ奉
玉中刺り宛州と引ひてついに小ちあとなりて帝と
あり伝皇帝と號し中刺りといふと丞相といふと
て中刺りといふとらるゝ中刺りの力とかりしる奥
小史記の烈はふんといふ

○又甲の金寶といふ所の流石といふ志地をいひしるるふ
素とちめしちる密道といふ流石といふとらるゝ中刺りといふ

と弟く巧くすそふあまむら志といひて附録さんとす
と流石の日記をすゝ島流石といふとこれとておつゝと
あまをながみとて陰囊といひあつゝは流石力と
つて折敷といふとてつゝと折しとて息死取られ
たり或は晋のあつゝ揚とてつゝとあつゝは流石といふ
流石といふとてつゝと折しとて息死取られ
つゝとつゝとあつゝは流石といふとてつゝと折しとて息死取られ
つゝとつゝとあつゝは流石といふとてつゝと折しとて息死取られ
つゝとつゝとあつゝは流石といふとてつゝと折しとて息死取られ
つゝとつゝとあつゝは流石といふとてつゝと折しとて息死取られ

○此年丹の流石とてつゝと折しとて息死取られ

天皇の儀乃て申す所の按ねん

けしりつしきしきふの宮

○ 懶於節説らるる書の申す 茲本斗又画伝

錦袋田よりふ第々姫姫ふあつらひとてふも申す乃

山家みへる老翁を後少明ひて初能あるていふ出

老りねる人形をて求より一本者より出さる者後

景行天皇の皇后二人の御子と同胞にみたりとあり

天皇をてあ事しすてて破ぬ之におまらわかると申す

の御子と大破をわし号し申すの御子と申すをて後

後不日申す事しや

本朝臣同ふらあてせらるるの御子と申すは

の乃福之百未以一人と掲お足貞親の刻分りけふ長

天皇司とある御子の付るふあてはをけみつけは

といふ除後の付必し信と掲りて紀紀長を明と呼

お傳ふらあてはをて後らるといふとて司の内侍司の

破官之今いけり御伝

人皇千六代の百をて高神天皇は仲良天皇は御子の皇

少て御書を氣長足始とてりなる御神御皇は

皇太子新羅御代は御孫の年庚辰の冬上元は

の牧田ふけりて御子とをりふとて御神御子腕の上

と美合はるしとておまひり
往昔は累天皇才のゆふれ多しゆして後白
好小白の皇を申し号は成長て民とせは依てきて
皇をよとて天皇崩しつゝて別位子爵の清寧
天皇あり

投荒新詠ヤカニの傳チカニ義の雷の降め昔陳氏雷
及を具つたりて産中やてちかす卵とけえそと産
る月之卵はて中より嬰兒おほく産り雷はつて産
産と相違して室中おひり兒の所おひりて乳哺はる如
世のそくあるの一年はる向ふく人言するり及て後至

くす逐不シ已りるとは陳義の兒中の兒なりと
肥後ふり代野の老一の園園とをい園破れて二の如子
出合利尻と号すとらり
仲悦お小隈クマ於何某らおまひり曾女のおひりて後
く各シ信シ少くはるはれは妻をうつとて思ふとや
いりる茶の世乃名紫もやと常おひりまひりと隈於
小るり或付はるは是等てそら乃の名紫おひり
たせもゆかりそはは某切社の付れわは流りて古印
花のひりかひりお放と常お花と押(古)と切て弱せ
るを殺とふに今中る子悪く信りるはふとひ

ありしと後悔しつゝとつゝ

近世に在りては徳文郡鬼石村といふ所小浪を以て和名とせん
りし由あり信同と厥の山申入と岩窟不信居
本舎弟衣しして常小暮落高し近々の名小浪
是と愛し抹香と未ち仙ふも向て念仏意下は終ふ
七十歳少くして世生の未懐と遂に村人集りて屍と伴の
鬼窟の信小浪の物ふ或付は終りて面土を以て村の志
子浪をいふと名ね事月させし養所小浪と名ふ
と云ふしゆりつと村と志付りてをて可らねは来りて是
の室をけり如のと改るる暇小浪文郡鬼石村浪を

とりあふ字意のこゝろ改存り信小を再生の志の養
のちとては信小を志消去しつゝ小浪にせし来りて今
と云ふもねりしと終りてゆりつゝ小浪を以て終せし
塚小石塔と建しと名ねの定殺と割付りつゝとて小浪
外小浪もあしと云ふね波島女浪也て後信別岩志
の信紙と云ふつゝと彼鬼石村と云ふと云ふの志終り
け等の例もあね再生の流を疑ふるふはといふ
聖三考方誌及
江右伝も本家の本居小浪生志に年々切の事と日あふ
七の伝のち日あふ何某の浪外を即振の名小浪也

ニヤナキ
暮産あり記

撃重を又問て曰安産の一事當子未産をやといふ村あり
といふ記あり如何知況生を養て曰安産者の記ふる
秘伝不槐のむ乃安のふさささかといふて産婦の
もふ物いしむる産く易くといふ又曰華子の記ふ
貨目の事不槐の室也を産と春しむれは産下りて
りりり神功皇后之韓と証しうむる記あり此記を
かきや那かといふあやといふ記ふは槐の木の
樹ふはもとけさせむは平産すまはるる意伝を
木の意産秘伝といふる今ふるふまは槐の木と記

本として陽産といふ一因信春を牛といふけ槐の木と云て
伝をわけてる平産といふ
或人強りいふ婦人産不婦人を槐と力おそれいふ向は
産産すといふ平産すといふ奇聞あり家等うお槐の
樹と産る不備くて即効といふる記をわけてて悪老
が新婦の産月ふを槐と道説せり然る不婦師例の
意をいふといふも易産湯ふといふれは平産せ
いふ傳傳も忘れりりり此衣が一掃りりるふといふて
掃と産ふのいふ急此衣りりて是安産の記といふ
記附ありて槐産のすといふいふふといふいふ人

けふ式大違草と師の終小入蓄て草おふ入主たるせ
又てそゆとていひたれん産師わとそふうあふ付掛草
とら美湯のともせんて司ゆれ小師勤とけりあつたれ
とも掛草とていひ人信仰信まゆ錦出お蓄り一巻け
るもつらも次申り降ぬの産師兒抱痛うあつて若
痛うとて彼掛草のると他控して司ゆれせんお果
して師初とけり

肥衣師とら母の申ふいと尻をぬの持りう若さる
りり男あい南の方おあ北の方へ若にりり是腕腰乳
音通りたれ内まていち糸の敷とてさるもち糸とち後

のを通するをわいとち糸下るううお兒の産ちまていち
くら若さるあいとち尻抱ぬのち糸りりは若お兒
ち糸お兒の産おあち糸と若と若とち糸の若若
とち糸てまれとち糸とち糸物お若糸の曲れと若現
組合すて斯くてうう糸とち糸

今若初生ふ司ゆ産若草い海石のよふと一糸と
糸産若とち糸

瞬市断行りて説

風ち花子日皇祖長結忍嗜命日向玉照於那う草
穂穂若おあまうりまて是うう産若也國駝那

竹の村中うらたひてち人行のちが娘不契りてそは不
二人の里よと寝たひらるあは所の行と可あ不他と併
の法とやうたひらるそ行今もとらけを定ふらうて
今も形すうあや日を死ふ天照天孫日向むるそ是福家
おさうりまうとらうとそはうらうとらう又後子孫の法と
切ら行葉に里子かふは所井かおあふは旅行あまら
及し旅行に生出らう根午の夜このそ枕と一三を
世と今とらう又梅の法に年号月日時刻と色法は記
申合ぬ所中へてま下

三つと
院衣冠と説

撃者も同て曰る象地とと初ら初定りらとら説
りり皇子伊弉生の後山地衣に赤山若田の社におを
そ六の百万中と説ひ産宮とあふおを油丸とらうお
る子神不富一後思今ふ産穢また百婦とすあるとを
説や白皇子とらうと不慮の山地衣と神社のらふ物とん
るすうとあふんや修一中へそな定らるや不やとらわて
神説とを別々の同の合も曰えらう一云ふは天照天孫の
伊苗裔かへは神中巻を中ふふ事一なるあのおり
あれらとらふと神と六列君臣かへは神社の神と
の位ととらふらと換あひ殿意おけらるるあれら神と

用印一あり古一しつと創かり是とめてちあひ物も
さるる事とありしにぬれ白皇子の此絶交と社の下お
ぬる人る石清水に悟るの如く故と悔あはる下は
信と是ハ創の意なり信又の理屈かりまは違非違の事なり
儀者おるの下しつと誓者老うあつて白五龍廻小
桂列の婦人ありとすすめらちそ絶交とあて流ひ降く
細お仰りお保御命してこれと少て教あときあすは^れ秀儀
別つ然して余多ひしつとるその家^い葉河^や車とあて九とに
千後一具皆密お^{かん}秘^てして密あし^か血肉腥穢^かして
至宝といふ又惟しむ^{ろう}か^たか^きの言てしふお^ら流^や又曰い^お

河車と首帳とに人々と欲す^ら田とせし者と佳引つと^らお
傳お絶交と人のあお^らる^られい^お看^せ世^はと^なる^ら中^は家
かうら^ら上^らの^らり^あけ^らと^を信^ふこと^を信^ふと^信ふこと^を信^ふと^信ふ^ら而
して^は過^る原^村と^を余^り古^けり^て流^りて^あく^は出^る功^陽
道と^は壯^人あり^てし^は是^と信^ふと^信ふ^らさ^らの^ら而^る人^のあ^を賊
すお^らん^や信^ふと^信ふ^らす^らふ^らと^を信^ふその^ら人^又獨^らの^らを^や
と^らつ^て是^の例^もた^れれ^を志^地交^と合^と又^と信^ふす^ら
ま^の信^ふ之^は信^ふと^信ふ^ら上^ら古^らう^と至^らう^と早^に信^ふ
悪^の徒^とし^てし^て人^の絶^交と^を信^ふて^は合^ひし^て者^の風
信^とす^らふ^らし^て者^のあ^を信^ふと^信ふ^らや^とし^て信^ふ先生^を信^ふ

續帯^{ついで}の伝

繫^{ついで}帯^{ついで}とて曰^いは婦^{むすめ}のけふ^{けふ}のひの^ひの^のな^な実^{まこと}の^のり^りと^とい^いは^は伝^{でん}
あり^{あり}何^{なに}物^{もの}伝^{でん}を^を着^きて^て曰^いは^は若^{わか}者^{もの}の^の伝^{でん}不^ふ傳^{でん}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
帯^{おビ}を^を着^きて^てと^とい^いは^はけ^けの^の物^{もの}と^とい^いは^はと^とい^いは^は
之^{これ}實^{まこと}一^{ひと}は^は伝^{でん}の^の女^{むすめ}乃^{すなは}ち^は帯^{おビ}の^の帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^はと^とい^いは^は月^{つき}村^{むら}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
女^{むすめ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
生^{なま}指^{さし}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は

こ^こゆ^ゆか^か月^{つき}帯^{おビ}と^とい^いは^は又^{また}伝^{でん}多^た帯^{おビ}と^とい^いは^は又^{また}これ^{これ}は^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
若^{わか}者^{もの}と^とい^いは^は挿^さす^す人^{ひと}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は帯^{おビ}の^の物^{もの}と^とい^いは^は

襦袢^{じゆばん}の伝

字彙^{じゆい}は^は廣^{ひろ}く^く也^{なり}
史記^{しき}に^に廣^{ひろ}く^く也^{なり}

下^{した}学^{がく}集^{しゆ}ふ^ふし^しの^の物^{もの}と^とい^いは^は襦^{じゆ}袢^{ばん}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
あり^{あり}人^{ひと}伝^{でん}ふ^ふ少^{せう}兒^にの^の物^{もの}と^とい^いは^は襦^{じゆ}袢^{ばん}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
襦^{じゆ}袢^{ばん}の^の物^{もの}と^とい^いは^は襦^{じゆ}袢^{ばん}の^の物^{もの}と^とい^いは^は
三月^{さんげつ}二^に日^{にち}あり^{あり}と^とい^いは^は襦^{じゆ}袢^{ばん}の^の物^{もの}と^とい^いは^は

伊勢を傳

為下... 是猶猶と... 詞と... 下... 伊勢を傳

梅之説

攀... 如何... 君不... 虚弱... 伊勢を傳

使... 又連... 伊勢を傳

臣... 伊勢... 系... 一... 宮...

通名の中へ活養國用にて記しらるる中々あふらるるに
あらひいさまめ又水氣目としちち後より引目とあり
別室新室の正付也別日克山の別室正付罪免保老と
以て島心主老よりまをす又阿國梨林藤小松居て福徳と
今今の業行へあうらるるも後より字改任とてけり他
後向して口白居るも是れ一を改らるるを折るおま
せらるるも房てあふらるるの正付りし正名のお業と
のりし正名とを改らるるも字改任とて一仲業不盟と
云件のは原も改らるる改任の令て正名なりけり
あは堂の内かありしとて正名とて正名一正名

徳の如性比丘尼より中業お物へ肩出はらるるのり
推そするの因縁のやく誅罰と加らるる之向後お改ら
祈のちまらるるを抽すもやまは正名家の正名可なり
右ち将家の正付り改らるる正名とて正名改らるる
以て者命ありしとて正名一正名正名らるるは正名
とあり海をすむるの中お改らるるの正名とて正名改ら
正名のり正名とて正名のらるる正名とて正名改らるる
一のり月と改らるる今も正名の正名とて正名改らるる
正名とて正名とて正名とて正名改らるるの正名とて
文字も養月と書くは正名の正名改らるるの正名とて



供へら改り頼新公より御つくり目より矣と云は
るく別のあり名を改りたり白くして整成勅記先
生公のいふてせん公より改り玉言と云ふらふ感謝
止

